





最後に、個人的に一つだけ反省しなければならないことがある。それはいわゆる「風聞」だけにたよった側面、すなわち、直接資料に当たっていないことである。何かを問題とするためには、こちらから資料に働きかける必要がある。研究会において、時には恥かしく思ったり、感動したりするのだが、それは知らなかったことを知らされることの刺激（自らの無知を自覚）と、問題提起に

対する刺激によるものである。いつか、刺激を与えうる機会をもつことを望んでやまない。「私」の苦痛だけではなく「他人」のそれをも問題化するのが「原爆文学」なのであり、その問題を「私」が引き受けることによってしか「原爆文学研究」は始まらないのだから。